

地域活性化伝道師プロフィール		分野	地域産業・イノベーション・農商工連携	○	農・林・水産業	◎
			地域医療、福祉・介護、教育		観光・交流	
			地域コミュニティ・集落再生		環境	
			地域交通・情報通信		まちづくり	
ふりがな		しばた としろう				
氏名		柴田 敏郎				
所属	名称	水杜の郷				
	役職	技術指導員				
連絡	住所	(公開)	〒 305-0035			(自宅)
		(公開)	茨城県つくば市松代4-21-2, 2-302			
	連絡先	(公開)	E-Mail stoshiro[アットマーク]extra.ocn.ne.jp			
		(公開)	TEL 090-5985-3696	FAX -		
連絡方法	E-Mailでお願いします					
略歴		<p>昭和48年3月31日 名古屋大学農学部卒業</p> <p>昭和48年4月1日 (株)津村順天堂研究所 薬用植物園 研究員</p> <p>平成元年7月1日 国立衛生試験所 北海道薬用植物栽培試験場 研究室長</p> <p>平成4年3月1日 国立衛生試験所 筑波薬用植物栽培試験場 研究室長</p> <p>平成9年1月8日 博士(農学)(名古屋大学農学部)</p> <p>平成11年4月1日 国立医薬品食品衛生研究所 北海道薬用植物栽培試験場 場長</p> <p>平成17年4月1日 (独)医薬基盤研究所 薬用植物資源研究センター北海道研究部研究リーダー</p> <p>平成23年3月31日 同所 定年退職, 同所 客員研究員(令和2年3月31日まで)</p>				
著作・論文等		<p>最近の実績, <原著論文> Minami, M, Tanaka R., Mori T., Fujii T., Tsuchida T., Toshiro Shibata (2023): Population genetic structure of Wild Angelica acutiloba, A. acutiloba var. iwatensis, and their hybrids by atpF-atpA intergenic spacer in chloroplast DNA and genome-wide SNP analysis using MIG-seq., Natural Medicines (Vol 77. 印刷中) <総説, 解説>1.柴田敏郎 (2021):養命薬の代表, 朝鮮人参-絶滅危惧種オタネニンジン-の利用と栽培化の歴史, そして現代-, FFIジャーナル, Vol 226 (4),333-341. <書籍>1.柴田敏郎 他(2016~2021年):「薬用作物栽培の手引き(1)~(5)」, 薬用作物産地支援協議会, 分担執筆. 2. 柴田敏郎 他(2017年):「作物栽培大系, 第7巻, 工芸作物」, 巽 二郎監修, 分担執筆4品目, 朝倉書店.</p>				
取組概要		<p>・現在, 漢方薬など医薬品の原料となる生薬や薬用作物の供給は中国はじめ海外に依存し, 自給率は約12%になっています。近年, 中国内での需要の増加や物価の上昇の影響で生薬の価格が高騰し, 政情不安などもあり, 今後の安心・安全な国内産生薬や薬用作物の安定供給が業界(実需者)から求められています。一方, 地域活性化の一環として薬用作物栽培への取り組みを求める声が全国の自治体や農業従事者(供給者)から寄せられていますが, 医薬品業界の求める品目や品質及び価格情報が正しく伝わっておらず, また, 種苗の確保や栽培の指導者が不足していることもあって需要と供給のマッチングが十分に進んでいないのが現状です。</p> <p>・このような状況から, 実需者及び供給者からの要望をマッチングさせ国内栽培を振興, 普及させるために, 現地の事情に即した栽培指導や助言を行ないます。そして, 医薬品や健康食品の原料となる生薬や薬用作物の安定供給体制を構築し, 自給率の向上及び農業や地域の活性化に寄与することを目指します。</p>				
メッセージ		<p>これまで40年間以上にわたって取り組んできた薬用植物の栽培に関する研究の経験を生かし, 漢方薬や健康食品の原料となる生薬や薬用作物の国内栽培の振興, 普及に関する相談への助言および現地指導を行います。</p>				
関連ホームページ		-		活動エリア	全国	

※ 公開できる情報のみ掲載しています。

※ 依頼・相談等に伴う謝礼等条件につきましては, 双方協議の上, 決定してください。

※ メール送信は, [アットマーク]を@に置き換えて行ってください。